

---

# 入学式の日に浜辺で衝撃波を打つ

歯車るら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

入学式の日に浜辺で衝撃波を打つ

### 【Nコード】

N8629C

### 【作者名】

歯車るらら

### 【あらすじ】

ハイテンション・プリンス、コナタ様が繰り広げる臨海学校！

よく考えてもみる。このオレ様が、何で臨海学校なんかに来なきやならねえんだ。こういうのは、一般庶民の遊びだろう？　そこに、何で国の中でも超エリート、このオレ様が来なきやならねえんだよ！　くだらねえ、あまりにもくだらねえ！　今すぐ城に帰ってつまらねえ家庭教師とにらめっこしてくれんぼしている方がよっぽどマシだっつ。炎系の魔法なんて、使って爽快だぞ？　アフロだぞ？　あたり一面焼け野原だぞ？　そもそもだなあ、「最近の若い者は家に閉じこもってばかりでいかん」とかいうたい文句を本気にしやがったクソ父上が悪いんだ。オレ様は、ハイパーオレ様だぜ？　城になんか閉じこもってねえよ！　庭の迷宮でいつも救助隊ごっこしてんだからよお！

「あ、コナタ様も、いらしてくださいさったのですね」

「ん？　ああ、じきにオレ様も家を継ぐことになるんだ。今のうちにいろいろな経験をつんで、立派な当主にならないといけないからな！」

「まあ、とても素敵なお志ですわ！　こんな素晴らしい方がこの国の指導者になられるのですもの、今よりもっと素晴らしい国になりますわ」

そう言っただけで、それこそ花のように微笑むのは、下級貴族のベリーゼだ。ふわふわしたクリーム色の髪に、アメジストを思わせるような高貴な紫の瞳。白磁のような肌に白桃のみたいな色した頬。唇は朝露に濡れたスミレ色……。その微笑みは、万年雪すらもすべて溶かしきってしまうほど柔らかく暖かいんだ……。ああ……。ベリーゼがいるなら、ベリーゼのためなら、この臨海学校、絶対楽しんじゃうもんね！

で、臨海学校ってのは、何をするものなんだ？　訳の分からない

うちに入校式が始まっちゃった。オレ様ともなれば、一般庶民に混ざって整列するというようなことはしないが。

今回はトクベツだ。何のかのと理由をつけて、ベリーゼの後ろをしつかりマーク。ああベリーゼ！ お前は後頭部すら芸術品のよう  
に美しい！！ つまらない教師どもの言葉も、お前の姿を見つめな  
がらだと、まるで喜劇のセリフのように笑えてくる。ああベリーゼ  
お前と浜辺でスキップしたい！

なんて考えてるうちに、入校式は終わった。これからはオレ様の  
めくるめくタイム。ベリーゼと砂浜で追いかけてが始まるんだ！  
…！

オレ様が勇んで顔を上げると、ベリーゼはすでに別の友人のそこ  
ろに走っていた。ああベリーゼ！ 罪な女だ！ で、オレ様はとい  
うと、くだらねえ一般庶民のハナタレ坊主どもに囲まれている。お  
おベリーゼ！ オレ様とお前のきらめくショウ・タイムはいつたい  
どこへ……！！

「コナタ様あ、男子は遠泳ですよー。早く行きましよー」

「コナタ様あ、着替えはこちらですよー」

「コナタ様あ、」

「分かってる……！」

何でこのオレ様が！ この、このオレ様がだなあ、こんなガキン  
ちよどものお守りをしなきゃならねえんだ！

水着に着替えたオレ様が、さっそうと砂浜へ降りる。ベリーゼ、  
見てるか？ オレ様の磨き上げられたこの肉体を……。

「コナタ様あ」

「なんだ愚民！」

「がりーん」って、感じですねえ」

オレ様は耳を疑った。今、このバッド・ボーイは何と申した。

「コナタ様の体、がりーん」ってオノマトペが、すごく似合いま  
すねえ」

……、がりーん。オレ様的には、がびーん。……いや、そんなくならないシヤレは父上ですら言わない。

「……お前。名は何と言う!？」

「え、グラジロディアゼギューソズノツサズと言いますが」

「長い! お前なんぞ、ベロンベロンbで十分だ! 今日からお前はベロンベロンbだ!」

「え、それは人権侵害……」

「オレ様がホウリツ!」

「……はあ……」

くう! ベロンベロンbめ。オレ様より立派な体格をしやがって! 末代まで呪ってやるからな、ベロンベロンb! ああ、ベリーゼにはこんな惨めなオレ様は見られたくない。

「コナタ様。遠泳ですって? 頑張ってくださいませ」

「ああ、もちろん全力を出し切る!」

こういうときに限って愛しいベリーゼはこのオレ様に声をかけてくれる。その麗しい微笑みだけで、オレ様は救われるのだが。

それから彼女は、またも幸せそうに微笑むと、また友人の元へ走り去った。女子はカッター漕ぎらしい。ベリーゼの白く細く美しい腕が、紫外線にやられメラミン色素を大量に分泌し、なおかつどうでも良い筋肉に縁取られるのは我慢がならん。くう! できることならオレ様がカッターを漕いでやりたい!

「コナタ様、そろそろ行きませんかあ」

「うるさい! 分かってるベロンベロンb!」

だがしかし。ベリーゼが見ているというのならまだしも、この国の未来を預かるこのオレ様が遠泳などというくだらないことに費やす時間があるというのがおかしいんだ。

浜辺にずらりと男子が並ぶ。その中に、このオレ様。清く正しい血筋を持つオレ様が混ざる。混ざったところでその高貴さは一向に衰えることはない。むしろ逆。そう、お前たち愚民どもは、しょせんオレ様の引き立て役なのさあ!

でもやはり、泳ぐのは面倒くさい。そこではたと気づく。別に泳ぐ必要などないじゃないか。

「位置について……！」

教師の声が浜辺に響く。快晴の空は、海の青ほどに澄み渡っている。俺たちの浜辺の向こうに岩場がある。その影にはカッターが浮かんでいるはず。そこにベリーゼもいるはず。よし。

「よい……！」

オレ様は静かに呼吸をためる。全神経を、両手のひらに集中させる。手のひらが熱い！ 全身が無になるような感覚！ 周りの空気が、いつもと変わる！

「……スタート……！」

「……はあああああああああああ……！」

教師の声に、オレ様の華麗な声が重なる。そしてオレ様は！

なぜか空を飛んでいた。

はるか地上を見下ろせば、そこには大きな穴が開いている。巻き添えを食らった愚民どもがもがいている。中にはベロンベロンも混ざっている。

オレ様の計算は、こうだった。

衝撃波を後ろに飛ばしてその勢いで海へと前進する。威力からして、カッターからオレ様が見えるところに減速し、オレ様は自力で泳ぎだす。それをベリーゼが見つけ、「コナタ様、素敵！ ベリーゼをお嫁さんにして！」と来る。それを寛大な心を許可をする……。

完璧なはずの計画は、砂浜に穴を開けただけで終わった。あと、ベロンベロンを含む庶民どもが砂に埋まった程度。オレ様はもちろん華麗なる着地を決めた。

その日のうちに、オレ様が半ば強制的に城へと帰還させられた。まだ偶然にも浜辺にいたベリーゼには一部始終を見られていたらしく、すれ違いざま、青ざめた顔で「だっさ……」と言われてしまった。ああ、ベリーゼ！ オレ様の實力はこんなもんじゃねえぜ！

この由緒正しき血統のオレ様の力を持つてすれば、こんなビーチなど、瞬時に灼熱地獄に変えることができるんだぜ！

リメンバー・ミー！ リメンバー・ミー、ベリーゼ！ オレ様は、この国を背負って立つ漢なんだぜ！！

（後書き）

『いつ』『どこで』『何をした』という3枚のカードを組み合わせ  
たもので、その結果がタイトルです。  
お読みくださりありがとうございました。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8629c/>

---

入学式の日<sup>に</sup>浜辺で衝撃波を打つ

2010年10月8日15時17分発行